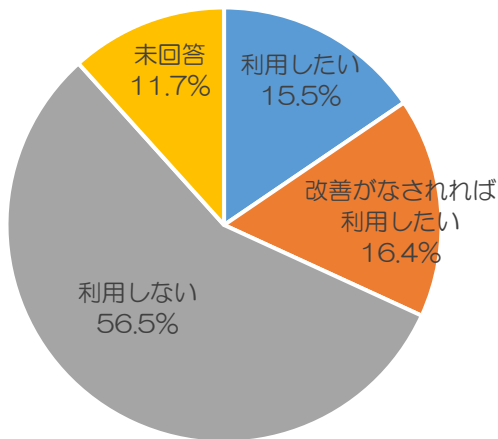
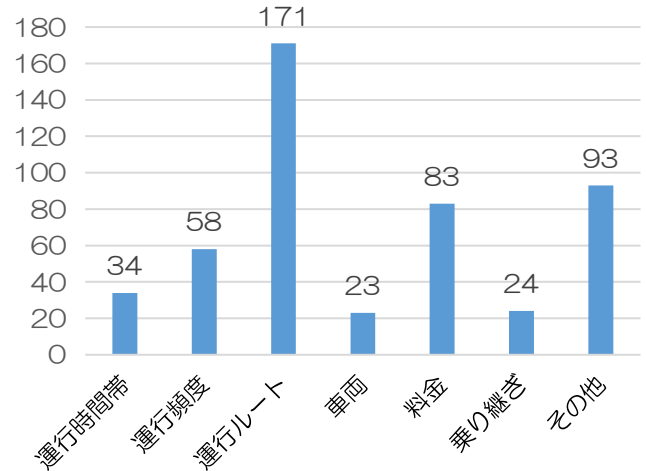


⑨今後の利用意向



⑩改善してほしい項目
(複数回答)



7. ま と め 回答者のうち65歳以上の高齢者が半数以上を占めていますが、週に4日以上外出されると回答した方が約3分の2にのぼり、外出の意欲が高いことが確認されました。

自家用車の運転については、約7割の方が運転免許証をお持ちで、約6割の方が「自分で運転している」と回答しています。残り約4割の方は、徒歩や公共交通を主たる移動手段にされていると考えられます。

「つくし野くるり」の利用状況については、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大していた時期ということもあり、本事業の利用については約97%の方が「利用しなかった」と回答しています。その一方で、今後の利用意向については、約3分の1の方が「利用したい」もしくは「改善がなされれば利用したい」と回答しています。

今後は、実証実験運行で得られた利用データや本アンケート結果等に基づき、事業の方向性を検討してまいります。

II つくし野自治会連合コミュニティバス作業部会より

自治会のみなさん。アンケートなどへのご協力ありがとうございました。

今回の「つくし野くるり」の実証実験は、コロナ禍の特殊な事情の下で実施され、本来の役割を果たしたとは言い難い状況です。

また、つくし野コミュニティバス計画は、交通空白地域の解消を目的として、2015年のアンケート結果に基づいて「つくし野—成瀬間」ルートで具体化されてきました。しかし、その後、道路の幅員、バス事業者の人員不足などから、ルート、使用車両などの見直しをせまられ、事業目的も高齢者福祉を対象としたものになってきました。今回のアンケート結果は、この間の経過が必ずしも周知されていない傾向もあらわれています。

今回の実証実験を踏まえ、ルート、停留所などの見直しを行い、コロナ禍が収束した時点で、改めて実証実験を行うように取り組みます。ご理解をよろしくお願いします。